

いじめ重大事態に関する調査報告

保護者の所見

まず、このような状況にある私たち家族に温かい手を差し伸べてくれたたくさんの方々に、心からの感謝をお伝えさせて頂きたいと思います。温かいお気遣い本当にありがとうございました。たくさんの優しさに救われました。

令和5年10月に起きた「いじめ」行為によって、子どもの日常生活が突如奪われてしまったことは、私たち家族にとっては衝撃でしかありません。また、1年半経ったいま現在何も解決しておらず、加害行為を無かったことにして日常生活を送っている子どもたちがいること、それを解決することもなくやり過ごそうとしているおとなたちがいることに、とても強い違和感を覚えます。日本全国で「いじめ」行為がなくならないこと、「いじめ」が解決しないことの構造がよくわかる気がします。

もちろん、全ての人が幸せに生きているわけではないので、社会の中から「いじめ」行為はなくなりません。それでも大事なことは、やって良いことと悪いことの区別をおとなが子どもたちにきちんと伝えることだと思います。■■■■小学校では、そんな当たり前のことがなされなかったということだと理解しています。日常的に起きる些細なトラブルを解決させることなく、学校全体でのいじめ行為を助長させるに至った学校教育に対しては、もはや何の期待も抱くことはありません。佐倉市は「ばれなければ何をしても大丈夫」という価値観で子どもたちを教育して卒業させていく場だと分かりました。

怒りや憎しみという感情が無いわけではありませんが、負の感情は何も生み出しはしないことを私たちはよく知っています。だから私たち家族は、苦しみ続けながら生きるしかありません。

令和7年3月11日